

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかかわる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム青い鳥
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	津市高野尾町3006-202
記入者名 (管理者)	有吉京子
記入日	平成20年11月1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>当事業所の理念は「四笑」である。笑顔は事業所の質とも正比例すると信じ、地域の中でその人らしい生活を継続していくため「利用者様の笑い」「家族様の笑い」「スタッフの笑い」「地域社会の笑い」の「四笑」を理念に掲げ運営している。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎日のミニガイダンスや全体会議では理念をテーマに職員全員が統一した意識で日々の業務に当たるよう指導を行っている。また、職員も統一した対応に努めている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族へは月1回発行のホーム便りや請求書の特記欄や、時々電話を活用して伝えてある。地域住民の方々へは、来所時に玄関先に掲示した理念の説明を折りにつけ行っている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>当事業所の立地は隣近所と密集した団地の中である。散歩時の挨拶や自治会長等の訪問も多い。また畑作物の差入れやお返し交流もできている。近所の小学生のちびっ子コンサート開催も恒例となっている。</p>	<p>○ 今後も積極的な働きかけを行い、回覧板等にホーム便りや写真を載せていただくよう依頼していきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の草刈りや地元行事にはできる限り参加している。地元の人々との積極的な交流に日々意識して努めている。また、団地住民の職員が5名ほどいてそれぞれの近隣とホームの橋渡しをしてくれている。</p>	<p>○ 今後も地域の人々のボランティアへの受け入れも継続していきたい。経営者は今年からこの地域の民生委員を引き受けた。民生定例会議出席時には当事業所の話題も提供していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者は職員の日々の認知症ケアの実践を踏まえて地域のような研修や会合に関わりたいと認識している。また、人材育成に貢献して実習生の受け入れの声掛けや地域大学の卒論協力を積極的に行っている。	○	地域住民の方々対象の介護予防教室の開催や認知症の勉強会等の機会を定期的につけていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全体会議で自己評価に取り組んだり、外部評価の結果を報告して反省会等を持ち、今後の目標としている。また介護計画の件で生活目標プランとして取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では団地内の他グループホームとの意見交換を行った。そこで利用者サービスの実際や評価への取り組み状況も話し合いお互いのサービス向上に活かそうと努力している。また、家族様ご出席の企画を実施した際には、家族としての思いとしての貴重なご意見もいただいた。	○	今後も内容の深い意義のある行事にして事業所の質の向上に活かしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	常日頃より、市町村との連携の意義は認識しているが、まだまだ交流の機会が少ない現状である。	○	今後とも事業所の実情やサービスのあり方、地域住民の方々との課題についても積極的に連携を図っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、入所者様一名が成年後見制度をご利用されている。制度に関しては職員に説明を行い今後の必要性についても話している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関しては勉強会を行い、職員全員の意識レベルの向上に取り組んでいる。また、掲示物やマニュアルを作成して理解や実行の浸透に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、じっくりと丁寧に管理者が説明を行っている。また、医療連携や身体状況悪化の場合の対応や方針も日頃より密に連絡をとって相談を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や不満等は介護記録に細かく話し言葉で書き残し、毎日の申し送りで職員に伝える体制を整え、反映させる努力をしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には毎月発行のホーム便りや請求書を郵送して、そこに日々の写真や状況説明を加えている。また、特別なことや近況報告は電話やメール等でこまめに行うよう努めている。個人の金銭出納帳には確認サインをいただくようにしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等への訪問時にはできる限り問いかげや報告を行って、喋り易い雰囲気づくりに留意している。そして意見に関しては会議で取り上げ、運営に反映していく努力をしている。事業所内にはご意見箱を設置し、自由に投函をお願いしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見箱を作り、匿名で記入できる体制を作ったり、全体会議では一人一人の要望や意見を最後に必ず発言できるシステムをとっている。また日頃からコミュニケーションを図るよう心がけている。意見、提案はできる限り取り入れる方針で運営している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者とその妹は通常のシフトに入れないで利用者の状況に応じた対応が図れている。パート職員を利用者の状態や業務内容によって補充してある。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者(運営者)は顔なじみの職員のケアの重要性を理解し、離職者がでないよう心がけている。決算期収支で臨時ボーナスを支給し職員の努力を評価している。昨年からはグループホーム担当の退職者は1名もいない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や研修はできる限り交替で参加してもらうことにしている。また研修報告は必ず月一回全体会議の最初に発表し、職員全体のレベルアップにつなげていく努力をしている。その他いろいろな研修には、出席費用の会社の全額負担、勤務体制優遇を図って積極的な参加を促している。今年にはケアマネ受験者1名、介護福祉士受験者2名が存在する。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への出席を行って他事業所の意見や経験を取り入れている。また近所のグループホームとの交流を図り、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。地域包括職員の訪問も月1回以上いただいている。	○ 同業者との交流の範囲を広げ、今後とも質の向上を目指していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレス軽減に関しては、常にアンテナをはって一人一人の様子を把握する努力をしている。個別面談や食事会、休憩を促し、スタッフの笑顔が利用者様の笑顔につながるものと信じている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得を奨励し、受験料やその他の支援を行っている。また職能によって手当を分けたり、ボーナスを3回支給して、向上心のある職員の意識アップに努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用申込みの相談時には本人・家族・担当ケアマネジャー・主治医等との面談を行うよう心がけ、細かいより多くの情報を得ることにより本人を理解し受け止める努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族のこれまでの苦労や生活暦等は話のできる雰囲気づくりに心がけ、できる限りじっくり聞き、受け止めて信頼関係が結べるよう努力をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	じっくり聞いた上で今、何のサービスが適切なのかの見極めは常に行いそれに応じた対応をしている。入所拒否のある利用者に対しては、時にはデイサービス、ショートステイ、ホームヘルパー等の利用も勧めて他事業所との連携も図っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	時には本人の自己決定も取り入れそのためのコミュニケーションや環境への慣れ、人間関係を築きながら利用開始の調整に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人一人の不安や喜びを把握して時には教えていただいたり、また励ましてもらったりと一方的な介護に終わらないような場面づくりや声掛けを行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子を電話や面接で細かく報告する際に、家族の思いを理解していることを伝える努力をしている。そして時には積極的な協力もいただくようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	電話や手紙の交流はもちろん、できる限り週一回訪問を実行していただいている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの面会者の訪問や、家族同伴の外出や墓参り、行きつけ美容室の訪問美容も実施している。また面会が途切れた場合は電話等で面会依頼をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う同士の席配置を考えたり、皆で楽しく過ごす時間を作り、トラブルが起きたときは職員が調整役に入って早急に解決し、穏やかなムード作りに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	自宅へ退所帰還した利用者には併設デイサービス利用を勧めたり、断ち切らない付き合いを大切にしている。また入院された方へのお見舞いも欠かさないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員には常日頃より利用者の表情や行動でのサインを見逃さないような接し方を指導したり、出勤時には一人一人に挨拶をするよう規則を定めてコミュニケーションを図り、本人本位の体制づくりに努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握は本人、家族、知人等に折につけ聞き取りを行い、新しい情報を収集して、本人理解に結びつける努力をしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人の一日のペースや心理状態、残存能力を日々の記録に書きとめ総合的に把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は職員全員でアセスメントを行い、会議で意見交換をして作成している。また、日頃より本人、家族等の意見も取り入れ反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しや状態の変化に応じて随時検討見直しを実行している。その際にはモニタリングや職員記録、本人、家族等の意見も取り入れて現状に即した新たな計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルにはバイタル、食事、排泄の記録、及び心理状態等を話し言葉で詳細に記録し、朝夕の申し送りで職員間の情報共有を徹底している。また介護計画にも活かしている。特変があった場合等は申し送りノートを利用し全員が読むシステムを作り、情報を共有する努力をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設デイサービスでは急な延長サービスもできる限り受け、家族の要望に臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの受け入れ、近隣のちびっ子コンサートの開催等も積極的に行い警察、消防、福祉センター等とも日頃から連携を図っている。運営者が今年から民生委員を受けた。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の福祉センターを頻繁に利用したり訪問美容や訪問マッサージ等も利用している。地域の他のケアマネジャーの訪問も多く話し合う機会が取れている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	併設デイサービスでは2ヶ所の地域包括支援センターのケアマネジャーとの連携は図れている。今後運営推進会議への出席依頼を計画している。	○	日頃より積極的に人的ネットワークの構築に向けて努力していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院は本人や家族様の希望に応じて対応している。職員が通院介助代行をする場合は家族に丁寧に説明をし、連携医師や利用者のかかりつけ医等の往診依頼や月一回の医療受診も実行して関係を密にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導時等の声掛けはさりげなく行い利用者の誇りやプライバシーを尊重するかかわりの徹底を図るよう会議の議題によくあげている。個人ファイルは鍵のかかる書庫に保管してある。	○	利用者の誇りを尊重する関わりの徹底を図るよう場面場面で引き続き指導していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	できる限り、職員の押し付けは避け、複数の選択肢を提案したりして自分で決める場面づくりをしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応の一日の過ごし方は作成してあるが、その時の本人の気持ちを尊重した個別対応に努めている。しかし、規則正しい生活リズムも心身の機能維持には重要と判断し、個人ペースに合わせると著しい機能低下に陥ると判断した場合は毎日の日課の機能訓練等は極力参加を誘導している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	褒めたり手直ししたりしながらオシャレ意識の温存に努めている。訪問理美容は2箇所と提携して、本人の意向や家族の意向で選択いただいている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に味付けや盛り付け、片付け等を行うようにしている。また頂き物の野菜や釣果の食材を使って一緒に調理をしたり、同じテーブルで食事をしている。時に、外食も同行している。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒー、梅酒、ヤクルト、ジュース等自由に好みに合わせて楽しめるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	現在、オムツ利用者はいない。以前体調悪化の為、一時的なオムツ装着はあったが、早期にはずす努力をした。一人一人の個別排泄パターンを記録し、把握して個別対応を図っている。時に、医師との連携の下、薬剤利用も行って便秘による悪影響を防止している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応入浴日は決めてあるが本人の意向や汚染によってはその都度個別に対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中のレクリエーション参加や活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。また寝付けない時には添い寝を実行したり、馴染みの利用者と同室睡眠を促して安眠支援に努めている。薬剤使用は専門医との連携を重視し、夜間の不穏改善や安眠支援に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	好きなことや得意なことの発見をして個別に対応し、役割を設定している。お願いした際には感謝の言葉を述べている。当事業所には「人事部長」「お花の師匠」「料理長」「記録部長」「童謡歌手」「必殺掃除人」「現場監督さん」「シャンソンの女王」が個性豊かに活躍されている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金は本人が所持していないが、必要に応じて外出時等には預かっているお金を力に応じて渡し買物の楽しみを味わっていただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日や、本人の気分、希望に合わせて散歩やドライブ福祉センター、喫茶店等へ出かけている。その際には歌詞カードやおやつ、お弁当を持参することも多い。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お墓参りがしたい、外食したい等の希望が出た時は家族の協力を求めたり、職員の勤務を調整するなどして実行している。	○	家族様との関係を支援するためにも今後とも自由にお出かけプランの支援をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話や子機で居室にて自由に話してもらったり、手紙の支援も本人の希望に応じて行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間や面会場所は特に決めていない。いつでも気楽に訪問していただける雰囲気づくりに努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のミーティングや全体会議で議題に取り上げ、身体拘束に対する職員の共有認識を図っている。「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」はプリントにして全職員に配布し、事業所内に掲示してある。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける、かけないことに重点をおくことより、本人の行動パターンを把握して帰宅願望が出た場合等は作業への声掛けや気晴らしのドライブや散歩等への支援を行い、本人の行動に注意を払っている。当事業所では現在鍵のかかかっていない時間が多くなっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員の記録作業は利用者と同じテーブルで行うようにして、さりげなく全員を把握する努力をしている。夜間は2時間ごとの定期巡回や2階居室部分の廊下全体を見渡せるモニターで確認し、24時間利用者の安全に配慮している。	○	緊急時は連絡網で連絡連携体制ができています。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁、洗剤等は利用者の手の届かない場所に置き、針や爪楊枝等危険物は基本的には職員が管理して事故防止に努めている。	○	一人一人の状態に応じて、職員見守りの下、必要物品を渡し、危険を防ぐ取り組みをしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	時々のヒヤリハットを記録して職員の共有認識を図っている。全体会議で対策検討会を行い事故防止に努めている。介護事故対応教本を用意してある。	○	今後、起こりうる危険性に関しての細かい取組みを決め、防止を図りたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	一昨年は消防署主催の応急手当の勉強会に一部の職員が参加し、訓練を行った。また緊急時マニュアルを整備しているが、すべての職員の習得はできていない。	○	随時交替で実地訓練等へ積極的に参加できる体制を作り、全職員の習得に努めたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	10月27日、消防職員協力にて、当事業所の防火管理者を中心に避難訓練や消火器の使い方、地震時の避難の仕方を自治会にも参加を呼びかけて行った。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	積極的な外出や役割分担を実行することにより、リスクが高くなることを家族様に丁寧に説明している。抑制感のない暮らしが「利用者様の笑い」につながることを具体的に説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	早期発見や記録の徹底は日々の業務の中心においているので職員間で朝夕二回の申し送りでも共有し、必要に応じて早期医療受診に繋げている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の個人記録や日誌以外に医療ノートを作成し、薬の処方や用量の変更は申し送りによって徹底するようにしている。また服薬事のミスはヒヤリハットノートに記載して職員意識を高めている。連携クリニックの薬剤師とも連絡を取りアドバイスを受けている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	当事業所の食材には野菜が多い。また、日中のアクティビティは全員参加を日程にしているため入所前に便秘薬を常用していた利用者も現在は自然排便になっている。今年に入り、便失禁や夜間の放便状態の利用者が出現してきたので医師の処方の元、下剤や整腸剤を時には利用し、本人の便秘による悪影響を予防している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一部利用者が歯痛を訴えてから全利用者の歯科受診を実施し連携歯科医の指導により夕食後の歯磨きやうがいを行うように職員の一部介助や見守りで徹底している。	○	毎食後の歯磨き実行に努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況は毎回チェック表に記録して職員が情報を共有している。必要に応じて看護師や知人の栄養士の助言も受けている。また、毎回完食できるように一部介助や見守り、声掛けを行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを作成して、全職員が予防や対策に努めている。利用者は家族同意により毎年2回のインフルエンザ予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾の漂白、消毒、清潔には注意を払い消毒チェック表で担当を決めて冷蔵庫や食材の点検、掃除を実行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口にはプランターを置いたり、玄関フローアーにはアートフラワー等を置いたりして明るいムード作りを常に意識した演出をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはオープンキッチンであるため食材のにおいや音が身近で五感の働きかけもできている。また、デイサービス利用者や近隣の方々の花や野菜の頂き物が多く季節感が一年中味わえる環境にある。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの一角にソファを置き、移動式衝立で仕切っているため思い思いに移動して仲の良い利用者同士でおしゃべりができている。またテラスにガーデンテーブルセットを置いて時にくつろいでいただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真や手作りカレンダー等利用者の好みに合ったものが部屋に持ち込まれて居心地の良さの工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空調は利用者の発汗の様子や冷えなどに注意して調整し定期的な換気も実行している。トイレには窓、換気扇、消毒剤を設置してある。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー設計である。ADLの自立の利用者が心臓発作の危険性がある場合等にはエレベーター利用を促したりして安全確保と自立への配慮を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	夜間の混乱や放尿のある利用者の心理状態をつかんで時にベッドの配置替えや目印の作成、馴染みの利用者との同室就寝を試したりして本人の安定や不安の除去に努め自立できるよう支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りの草取りや玄関横のベンチでコーヒーを飲んでいただいたりできる環境を作っている。	○	楽しみやくつろぎを味わっていただけるよう、敷地内にサンルームを作る計画を立てている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

大型団地の中の、公園近くに建つ洋風住宅の当事業所はとにかく「笑い」の多いホームである。この点は来訪者や他事業所ケアマネージャー等からも一様に評価をいただいている。併設のデイサービス利用者様との交流も多く、入所者様お一人お一人の表情が明るい。また、地域住民の職員も5名いて、その隣り近所の方々との交流や理解も少しずつではあるが得られてきている。開設以来、職員の入れ替わりが少なく利用者との馴染みの関係が着実に築けている。今後とも地域の中でその人らしい暮らしを穏やかに送っていただけよう、質の高いホーム作りに邁進していこうと職員の気持ちも統一している。昨年一年間は機能訓練やボランティア受け入れ、レクリエーション企画等に力を入れて心身機能維持に努めて社会交流が途切れないことを目標に運営を心がけた。現在、入所者様には車椅子利用やオムツ利用の必要が無く、ADLも特に目立った低下が無い状態だ。今後はその時の状況に応じた柔軟な対応ができるよう、力を付けていきたい。